

令和5年度 消費・安全対策交付金事業(食料安全保障確立対策推進交付金) 事後評価結果一覧表

| 目的 | 目標 | 事業実施方法 | 目標値及び実績 | | | 大阪府の自己評価 | | 第3者の意見 | |
|-------------------|---|--|--|------|------|----------|-------|---|--|
| | | | 目標値 | 実績 | 達成度 | 評価 | 評価の概要 | | |
| I 農畜水産物の安全性の向上 | 安全性向上措置の検証・普及のうち農業生産におけるリスク管理措置の導入・普及推進 | <p>コメ中のカドミウム国内基準値への対応状況やヒ素国際基準値の設定を踏まえ、より安全な農作物の供給体制の確立に向け、カドミウムをほとんど吸収しない「カドミウム低吸収性イネ」と水管理等を組み合わせたカドミウム及びヒ素濃度低減技術の実証試験を実施した。</p> <p>実証試験は所内ほ場において、カドミウム低吸収イネの栽培実証を、コメ中のヒ素低減に有用とされる出穂期前後3週間に4日間の落水期間を2回設ける水管理により実施した。今年度はこれまで検証してきた「きぬむすめ」に加え、登熟期の高温による品質低下が生じにくい水稲品種「恋の予感」のカドミウム低吸収イネ(中国234号)を用いて検証を行った。また、カドミウム低吸収イネは、その特性上マンガンの吸収量が下がり、ごま葉枯れ病のリスクが懸念されている。そこで、各品種におけるマンガン資材施与効果の実証についても同時にを行った。</p> | カドミウム低吸収性イネを用いたカドミウム及びヒ素濃度の同時低減技術の実証試験及び展示ほの総実施箇所数 | 1 | 1 | 100% | A | <p>大阪府において、より安全な農作物の供給体制を確立するために、カドミウム低吸収イネを用いて、カドミウム及びヒ素濃度の同時低減技術の実証ほを実施した。今年度は、カドミウム低吸収イネ品種「恋の予感環1号」「きぬむすめ環1号」とも落水処理においてもカドミウム濃度が極めて低い値を示したことから、導入可能性があり、本事業は評価できる。一方で、「恋の予感環1号」における落水処理による玄米中無機ヒ素濃度の低減効果はほとんど認められなかったことから、引き続き検証を行い、水不足の影響が品種の影響によるものなのかについて明らかにしていく必要がある。</p> <p>マンガン資材施用については、恋の予感環1号のわら中マンガン濃度に上昇効果が認められたものの、対照品種の1-2割に留まったため、気候の影響や年次変動等の確認引き続き検証が必要と考えられる。</p> <p>大阪府では出穂期の高温により収量・品質が低下する問題が顕著であるため、高温耐性かつカドミウム低吸収品種への適用も検討していく。</p> | <p>大阪府において水田は農地面積の多くを占めており、食料生産や都市環境向上の観点から、安全・安心な水稲の生産技術の確立が重要である。</p> <p>令和5年度は、高温耐性のさらに高い品種のカドミウム低吸収イネ(恋の予感環1号)について実証試験を行い、記録的な高温を示した気候下でもカドミウムの低減効果が確認でき、今後も夏は高温の傾向が続くことが想定されることから、生産者の高温耐性品種の選択肢が増えた点で有意義な成果が得られたと判断された。マンガン資材の効果については、微量要素ゆえの過剰害も懸念され、引き続き慎重な検討が必要と思われる。</p> <p>気候の年次変動も今後大きくなることが懸念されることから、再現性についての検証がますます必要となると思われる。この観点からも引き続き事業が継続されさらなる調査や実証が展開されることを期待したい。</p> |
| | 農薬の適正使用等の総合的な推進 | <p>(1) 農薬の安全使用の推進 食用・非食用にかかわらず農作物の病害虫防除に使用される農薬は、使用方法を誤ると農作業従事者のみならず周辺環境や府民生活に悪影響を及ぼす可能性がある。 このため、農薬使用・販売者等を対象とした講習会の開催や病害虫発生状況に対応した病害虫防除指針等を作成するとともに、農薬使用状況の確認・記帳指導を実施し、農薬適正使用の一層の推進を図った。</p> <p>(2) 農薬の適切な管理及び販売の推進 現在、府内における農薬販売所の届出件数は約5,500件となっている。これら販売所において農薬の販売が適正に行われるよう、農薬使用・販売者等を対象とした講習会を開催するとともに、立入検査を実施した。 また、農薬の適正管理等の一層の推進を図るため、農薬管理指導士の養成(更新)研修を実施した。</p> <p>(3) 農薬残留確認調査等の実施 府が推進する大阪エコ農産物認証制度において認証を受けたエコ農産物等について、農薬の適正使用および飛散防止を確認するため、農薬残留確認調査を実施した。(50剤、40件)</p> | 農薬の不適切な販売及び使用の発生割合 | 0.0% | 0.0% | 100% | A | <p>農薬の販売店や使用者に対して、講習会や現地指導により継続的に安全使用に係る指導を行うことができた。また、受講者の研修受講機会を増やすため、農薬管理指導士の養成研修および更新研修を在宅研修として実施することにより、府内農薬管理指導士の育成および安全使用に係る指導が実施できた。</p> <p>その結果、農薬販売者への立入検査等において、農薬の不適切な販売・使用事例は見られず、その発生割合を0%とする目標が達成できており、本事業は評価できる。</p> <p>また、引き続き農薬の販売者や使用者に対して、農薬の不適切な販売・使用が起こらないように、農薬安全使用に係る現地指導及び記帳指導等を行う。</p> | <p>農薬の適正な使用、管理および販売の推進を目的として、農薬残留分析や立入検査を実施している。また、オンライン等により農薬販売者を対象とした講習会を在宅研修を含めて開催し、多くの農薬管理指導士の育成推進を行っている。</p> <p>さらに、府特産のマイナー作物において問題となる病害に対して有効と考えられる農薬の登録等基準の適合状況について確認調査も実施している。これらの農薬使用現場での適正使用等の指導を充実させる取組みは、大阪府での農作物生産における安全・安心につながっており、農薬の安全使用の総合的な推進という本事業の当初目的は達成できたと評価する。</p> |

令和5年度 消費・安全対策交付金事業(食料安全保障確立対策推進交付金) 事後評価結果一覧表

| 目的 | 目標 | 事業実施方法 | 目標値及び実績 | | | 大阪府の自己評価 | | 第三者の意見 |
|-----------------------|-------------|---|---|-----------------|-----------------|----------|---|---|
| | | | 目標値 | 実績 | 達成度 | 評価 | 評価の概要 | |
| Ⅱ 伝染性病害・害虫の発生予防・まん延防止 | 病害虫の防除の推進 | <p>(1)防除が困難な作物の防除体系の確立 (ア)発生パターンの変化や使用可能な農薬の減少により防除が困難となっている作物に対する防除体系の確立 ・地球温暖化の影響により発消長が変化している吸汁性ヤガのモモ防除体系確立 岸和田市の包近地域は府内最大のモモ産地であり、高品質なモモ生産を行っている。 近年、本地域において吸汁性ヤガ類の発生増加による、果実被害が拡大し、収量が減少するなどの影響がでている。 本虫は地球温暖化の影響により、発生時期が早まっていることが原因と考えられるが、発生時期と収穫時期が重なることから農業での防除が困難となっている。そこで、黄色LED防除器を活用し、安定的かつ農業に頼らない吸汁性ヤガ対策を検証した。</p> <p>(イ) 薬剤抵抗性病害虫・雑草により防除が困難となっている作物に対する防除体系の確立 本府の基幹野菜であるナスの病害(すすかび病)やイチゴの病害(灰色かび病)、ネギの害虫(アザミウマ類)、水ナスの害虫(アザミウマ類、コナジラミ類)について、薬剤抵抗性の発達が報告されており、防除が困難となっている。そのため、本年度は上記作物の病害虫について、適切な防除指導および防除が取り組めるよう薬剤感受性検定を実施し、データを基に適切な防除体系を構築した。</p> <p>(ウ) 基幹的マイナー作物の病害虫・雑草防除技術体系の確立 本府の基幹的マイナー作物であるイチジクについて、主要害虫であるアザミウマ類に適用のある農薬が少なく防除手段が限られている。本年度は、上記作物の病害虫について、普及指導員・営農指導員・農家の協力を得て、ヨーバルフロアブル(テトラニプロール水和剤)のマイナー作物への農業登録を進め、防除技術体系の確立を図った。 本取組については、大阪府において、薬効薬害試験を実施し、各種分析機器を有し、数多くの知見を有する(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所において、作物残留試験を実施した。</p> | 従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等における防除に関する管理手法の現状値からの向上率 | 103.0% | 103.0% | 100% | A | <p>府内のもも産地で問題となっていたヤガ類については、防蛾灯の設置により被害が軽減された。この方法はヤガ類以外の害虫駆除にも有効な場合があることから、地球温暖化等の影響により発消長が変化する恐れのある他の害虫に対する効果も期待される。 大阪府の病害虫防除の主要課題である薬剤抵抗性病害虫については、様々な作物で問題となっており、その対策は急務である。令和5年度においても府の主要農作物で問題となる病害虫で薬剤感受性検定を実施しており、今後の薬剤抵抗性病害虫対策として非常に有意義な取組みとして評価できる。 さらに基幹的マイナー作物の農業登録推進にも積極的に取り組んでいる。設定した目標値も達成しており、本事業の当初の目的は概ね達成されたと評価する。</p> |
| | | 従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等の普及取組数 | 6 | 6 | 100% | A | <p>昨今の病害虫防除において、薬剤抵抗性病害虫対策は非常に重要な事項となっている。府の主要作物で問題となる病害虫について薬剤感受性検定を実施することにより、適期適切な防除の指導に繋げることができた。 また、さらに基幹的マイナー作物であるイチジクでの農業登録推進により、難防除病害虫に対し有効な防除体系を確立することができたため、本事業について評価できる。</p> | |
| Ⅱ 伝染性病害・まん延防止 | 重要病害虫の特別防除等 | <p>(1)クビアカツヤカミキリの発生抑制 モモ等のバラ科果樹に被害をもたらすクビアカツヤカミキリは、平成27年に府内で初確認されて以降、サクラを含むバラ科樹木で被害を拡大させてきた。 特に河内長野市を中心とした南河内地域のモモ産地等においては、被害が甚大であり、防除対策が課題となっている。これまで、本虫に対する防除対策について開発・検討しており、それらの技術を用いて産地一体となった防除対策を組んでいるところであるが、園地外からの飛散等による新たな侵入もあり、発生抑制に向けた継続的な防除対策を実施した。</p> <p>(2)火傷病のまん延防止 なし・りんご火傷病について、火傷病の発生及びまん延を防止するため、中華人民共和国から輸入されたなし属植物若しくはりんご属植物の花粉又は当該花粉が混和した農業資材及びこれらの容器包装を買い上げ、及び廃棄する必要がある。回収は郵送で、廃棄はオートクレーブによる消毒を実施した。</p> | クビアカツヤカミキリの発生抑制 | クビアカツヤカミキリの発生抑制 | クビアカツヤカミキリの発生抑制 | 達成 | <p>府内のモモ産地において、大きな被害を及ぼしているクビアカツヤカミキリについて、産地が一体となった防除を行うことができた。今回実施した防除対策については、今後の防除の実施や他の産地での対策の参考とすることができると考えられるため、本事業について評価できる。 本虫の対策には、一体的かつ継続的な防除対策の実施が必要と考えられることから、今後も継続して対策を実施する。 火傷病については、伝染源のひとつである花粉の回収・廃棄を実施し、侵入およびまん延の防止を行うことができた。本病はなし、りんごにおいて重要な病害であり、本事業について評価できる。</p> | |
| | | | 火傷病のまん延防止 | 火傷病のまん延防止 | 火傷病のまん延防止 | 達成 | | 適正 |
| 発病・まん延予防・防除・まん延防止 | 重要病害虫の特別防除等 | なし・りんご火傷病について、中国産花粉を使用した場合、大阪府内で新たに発生するおそれがある。火傷病が発生した場合、まん延を防止するために速やかに防除を行う必要があり、ストレプトマイシン水和剤等の農薬を備蓄した。 | 火傷病のまん延防止 | 火傷病のまん延防止 | 火傷病のまん延防止 | 達成 | <p>今回実施した防除対策については、今後、火傷病の発生が確認された際の防除の実施や他の産地での対策の参考とすることができると考えられるため、本事業について評価できる。</p> | 火傷病については、国内未発生であり、発生が確認された場合は重大な事案となるおそれが高いことから、リスク低減のため、農薬の備蓄は重要な取組みである。 |